

私が看護するうえで大切にしているもの

山内典子

(東京女子医科大学病院、東京女子医科大学大学院看護学研究科博士前期課程)

この仕事をしていて常に感じるものは人間のもつ力の強さである。私が関与するところは、まずその人を理解すること、そしてその患者さんやご家族のもつ力を信じ、その人が力を出すタイミングに合わせて手を差し伸べることだと思う。疾患が進行していてもその人が生きることを続けている限り、生き抜く力は存在している。脳神経外科や神経内科では、意識障害やコミュニケーション手段の障害を抱えた患者さんもあり、望んでいることを言葉で言い表せないことがある。そこから望みをつかむことは大変難しく、目や表情、身体のわずかな動きや雰囲気などで察することが必要となる。全身で訴えかけてくる分、私たちも全身で受け止める技を要する。患者さんやご家族が望んだときが、その人が最大限の力を発揮する最良のタイミングであることが多いため、私たちにはそのタイミングを見逃すことなく手を差し伸べることが要求される。ここがかみ合わないと回復のスピードやその人の満足感が違ってくるように思う。

今現在、課題研究に取り組んでいるが、脳神経外科に12年勤務しても見えていなかったものが見えてきたことに、ただ驚き、感動している真最中である。日々の看護業務の忙しさに流されず、足を一端止めてみる、そして注意深く見る、聞く、感じることを通して発見できることが実は多くあることに今、ようやく気づき始めた。そして看護師という仕事の貴重さを感じ、臨床のリアルな場面の中に居合わせることができる自分の立場のありがたさに気づく。実践の中に研究の問いを見つけ理論を用いて解釈し、導き出されたものをさらに実践に生かしていく、あるいは、研究的な視点を持ち、実践の中に新たな理論を発見していくという実践と研究と理論のトライアングルを実感できることは、看護師として働きながら学ぶことを経験して得ることのできる宝物である。

この経験は働きながら学べるという恵まれた環境なしにはできないことである。社会人を受け入れてくださる学校側の配慮、そして何よりも、進学を認め、応援してくれる上司と後輩の存在が大きい。その分、単なる自己研鑽のレベルに留めることなく、職場の看護に還元したいと思う。